

# 「鋤に手をかけてから後ろを顧みる者は、 神の国にふさわしくない」

ルカ9.51-62

皆さん、今日は年間第13主日です。私たちは、復活祭以降、様々な祝祭日を祝ってきましたね。今日から私たちは年間の教会暦にもどりイエスの生涯とその使命を聞いていきます。

今日の箇所は、ルカ福音書でイエスがエルサレムに向かう旅を始める箇所です。マルコ福音書ではイエスが旅に出ようとされたところ(マルコ10.17)から、エルサレムに入る(11.11)までの箇所はそれほど長くありませんが、ルカ福音書はきょうの箇所から19.44までがこの旅の間の出来事とされています。ルカはこの大きな部分に、マルコ福音書にはない数多くのイエスについてのエピソードやイエスの言葉を伝えています。

特にルカ福音書によれば、エルサレムへと向かうイエスの旅は、**十字架に向かう旅であると同時に、「天」に向かう旅**でもあります(51節)。その旅の中でイエスに従う人々には、他者への寛大さと、自分自身への厳しさ(覚悟)が求められます。

皆さん、私はキリスト者になることは簡単なことではないと考えています。しかも、良いキリスト者であり続けることはもっと難しいことだと強く感じています。

私は子供の時に洗礼を受けました。つまり、自分の意思でキリスト者となる選択をすることなく、キリスト教徒になったのです。私は、自分が何者なのか、ゆっくり考える必要があったのです。ですから私は、何年かのキリスト者としての生活の後、イエスの良き信者であり続けることは、本当に難しいと思いました。キリスト者であり続けることは、挑戦的であるとも言えるのです。

私の知る限り、日本ではほとんどの人が何年も勉強し、準備した後に洗礼を受けます。このような人たちは、キリスト教が魅力的だから、イエスの教えが素晴らしいから、教会は心を静められるところだから、などの理由でキリスト者になったのではないかと思います。

しかし、一度キリスト者になると、イエス様の良い信者であり続けることは簡単ではないことに気がつくと思います。例えば私たちは、自分の信仰を自分の周囲の人々に証しすることが、難しいことを経験しているでしょう。

今日の福音書では、イエス様ご自身が、彼に従って生きることが本当に難しいことであることを私たちに気づかせてくださいます。

イエス様は、もし私たちがイエス様について行きたいのであれば、自分を捨てて、日々自分の十字架を背負って従わなければならないと言われました。(ルカ9.23-27) イエスは私たちに完全な献身と犠牲を望んでおられるのです。

私は30年前ですが、1994年7月号のReaders Digestリーダーズ・ダイジェスト誌で、Nardi Reeder Championという人が書いた「What really is worthwhile? 本当に価値あるものとは何か」という記事を読んだことがあります。

この記事は、私たちがイエス・キリストの献身的な弟子としてどう生きていくかを考えるときに参考になると思います。Nardi Reeder Championは、人生を豊かにする8つの価値観があると示しました。しかし、ここでは、自分を捨ててイエスに従うという点から二つだけご紹介します。

一つは、「悲しみを恐れないこと」です。私たちは人生に失望することは避けられません。自分が願ったように生きられないという心の痛み、悲しみは誰にでもあります。問題は悲しみにとらわれ、悲しみを恐れてしまうことです。しかし悲しみは、私たちが一人で人生の不公平を嘆くために与えられるものではありません。悲しみは、苦しみ、泣くことによって、神の愛と祝福がすでに与えられていることを理解することができるようになるためなのです。

もう一つは、「信仰を大切にすること」です。神への信仰は、私たちが人生においてどんなに困難に直面しても、私たちの人生に意味があることを教えてくれます。それゆえ、失うことを、恐れず、大胆に生きることを可能にします。

私たちが神様の御心に目を向けることを妨げるのには、多くの場合正当な理由があります。私たちが神のみ心に目を向けることから気をそらせるものは何でしょうか。

しかしそれらに対して、私たちが妥協するなら、私たちは「神の国にふさわしくない」という厳しいお言葉に直面します。それらは拒否されるべき誘惑なのです。

イエス様が私たちに犠牲を求められるのは、私たちに対する主の愛があるからです。もし私たちが主に従うことを決めたなら、イエス様のあとについていくことです。イエス様は「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」と教えました。

今日、私たちは毎日、献身的な愛と犠牲をもってイエス様について行くことができるように祈りましょう。

